

研究分野

金融を研究分野に選んだ理由は、外国と時代の先端を見たかったからです。学生時代、新聞にモルガン銀行の広告を見たとき、銀行のグローバルな活動に関心を持ちました。企業であれ個人であれ、生産活動に資金は必要であり、その資金を低利で安定供給してもらえるかどうかが一番の関心事です。誰が提供してくれるかは二の次です。つまりマネーには本来国籍や民族性はありません。モルガン銀行は地球規模で企業とその活動に関心を持ち、社会と時代をみていると思いました。

金融業を通じていろいろな企業、産業を知ることができます。社会の生産活動の実態をまじかにみることができ、資金が投下されるころ、その対象を通じて、時代の先端技術や知識が見える、そう思います。もちろん、先端ばかりではありません。世の中の喜怒哀楽、世間や人生もみえるし、人が社会で生きるということを考えさせられる経験も多々あります。

時代が変わっても人の生き方は変わらないという人がいます。そうかもしれません。しかし時代が変わって、生活様式、活動範囲、価値観など、変わってきたことは多いのではないのでしょうか。ソウル市内、テジ洞のあるビルの地下食堂でユッケジャンを運んでくれた笑顔が明るいおばさん。ひとと接していると、なんだかその近所に暮らしているような気分になります。人の暮らしと商業活動は東京でも北京でも同じです。その暮らしをマネーがとりもつのもまたしかりです。

文化の相違は小さく、都会の生活は同じになりつつあります。服装、生活スタイルなどこうも同じなのかと不思議です。産業活動もそうです。万能細胞の世界的な特許競争など、枚挙に暇がありません。国境と文化の違いを超えて、地球規模で時代が動いているのを実感したくて、金融です。



■金融論 ■外書講読Ⅰ・Ⅱ(英語)
■国際金融論Ⅰ・Ⅱ

今野 昌信
(この まさのぶ)

学部卒業後、銀行、大学院、研究所を経て大学に勤めるようになりました。「怠け者の天国」という絵が好きです。バスケット、水泳など、少しかじりました。最近運動不足です。